# 日本薬学会

「学位(博士)取得者のキャリアデザイン に関するワークショップ」

報告書

2023年1月

# 目 次

		ページ
開催の経緯と概要		• 1
プログラム		• 3
参加者グループ分けおよび	運営スタッフ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 4
「趣旨説明」原稿		• 5
セッション報告		• 8
第一部「博士を取得し	た私のキャリアデザイン」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 9
作業説明		• 10
第二部「私たちが歩ん	でいるキャリアで感じる課題と解決のアイデア」・・・・・	• 13
作業説明		• 14
グループ報告	<del>,</del>	• 16
第三部「博士を取得し	た私たちがもつ未来の可能性」 ・・・・・・・・・・・	• 23
作業説明		• 24
グループ報告		• 26
事後アンケート結果		• 39
日本薬学会薬学教育委員会		• 54

# 「学位(博士)取得者のキャリアデザインに関するワークショップ」 開催の経緯と概要

薬学に関する学術の進歩を持続するためには学術活動に従事する人材の育成が欠かせない。しかし、近年は大学院の4年制博士課程および博士後期課程への進学者が減少しており、学術を推進する博士人材の不足が懸念されている。そこで、日本薬学会の目的「薬学に関する学術の進歩および普及をはかる」に基づき、薬学教育委員会は2022年度から今後の学術進歩を担う若手人材の育成に資する活動を行うこととした。

その最初の取組として企画したのが「学位 (博士) 取得者のキャリアデザインに関するワークショップ」である。薬学教育制度が変更された平成 18 年度以降に薬学部に入学し、大学院において学位を取得してアカデミア、医療機関あるいは企業等で働く若手博士たちから、キャリアの現況やビジョン・ニーズ等を聞くことを目的とした。ワークショップの参加募集は、長井記念若手薬学研究者賞受賞者\*1、および長井記念薬学研究奨励支援事業採用者または全国学生ワークショップ参加者で学位取得者を対象に行った。参加希望者は 29 名(6 年制課程卒業 23 名、4 年制課程卒業 6 名;男性 20 名、女性 9 名)で、長井記念薬学研究奨励支援事業採用者で学位取得者が 17 名(うち長井記念若手薬学研究賞受賞者 7 名;全国学生WS 参加者 2 名)、全国学生ワークショップ参加者で学位取得者が 12 名であった。勤務先については、大学 13 名、病院 9 名、企業 4 名、薬局 2 名、研究所 1 名でなった。

注:\*1 長井記念若手薬学研究者賞:長井記念薬学研究奨励支援採用者の中で、学位取得後5年目の活動調査で、長井記念薬学研究奨励事業の趣旨と理念にある「薬学の発展に寄与する強い意志を持って活動している研究者」に授与する。

ワークショップは 2022 年 11 月 13 日 (日) 9 時から 17 時まで Zoom によるオンラインで開催した。 佐々木会頭の開会あいさつに続き、中村実行委員長が本ワークショップの開催趣旨の説明を行った。趣旨説明では、参加者を対象に行った事前アンケートの結果も紹介された。第一部は「博士を取得した私のキャリアデザイン」をテーマにワールドカフェを行い、参加者間の交流と情報共有を行った。最初のセッションでは参加者は7テーブルに分かれ(Zoom のブレイクアウトルームを利用)、「私が博士課程進学(博士取得)を選択した理由」をテーマに「おしゃべり」を行った。セッション 2 では別のテーブルに移動し、新たに出会った参加者同士が「私が現在の仕事を選択した理由」について紹介しあった。最後のセッション 3 のテーマは「私のキャリアプラン」で、第二部以降でグループ討論を行うメンバーが同じテーブルとなり、自己紹介と将来計画について会話を楽しんだ。

第二部では本ワークショップのメインテーマとなる「私たちが歩んでいるキャリアで感じる課題と解 決のアイデア」について、第一部のセッション3と同じ5グループに分かれて協議を行った。作業とし ては、第一部のセッション 1 と 2 を振り返りながら、現在のキャリアにおける「課題」をリストアップした。また、議論の中で「課題」に対する「解決のアイデア」が出されたら併せて記載することとした。グループ討論の結果、「ロールモデル不足(不在)」、「不安定で不確実なキャリア(就職先、任期、給与、休職・転職など)」、「ワーク・ライフ・バランス」、「大学院博士課程在学時の経済的負担」、「臨床と基礎の連携不足」、「臨床で働く薬剤師にとっての研究時間確保」などの深刻な課題があげられ、解決のためのいくつかのアイデアが提案された。とくに「ロールモデル不足(不在)」に対しては、「自分たちがロールモデルとなる」という主体的で心強い解決策が提示された。

第三部は「博士を取得した私たちがもつ未来の可能性」をテーマとし、参加者にキャリアプランについて考える機会を提供した。まず、キャリアに関する理論の一例として「計画的偶発性理論 Planned Happenstance Theory」を紹介した。作業としては、10年後に「誰の」、「どんな課題」の解決に取り組んでいる可能性があるかをグループでリストアップした。続いて、各個人が自身の未来を選択し、3~4年後、6~7年後、10年後のキャリアを考え、これをプランAとした。また、プランAとは別の未来を選択し、同様に10年後までのキャリアを計画し、これをプランBとした。グループのメンバーのプランAとプランBを共有した上で、発表は代表的なプランを紹介することとした。第三部のプロダクトとして、参加メンバーのビジョンを反映した種々のプランAとBが提示され、参加者にとって博士取得者のキャリアの多様性と未来の可能性を確認する貴重な機会となった。

第二部と第三部の各グループのプロダクト、およびワークショップ終了後に実施した事後アンケート の結果を本報告書にまとめたので、博士取得者の支援や進路相談の参考にしていただきたい。

最後に、休日にも関わらず本ワークショップに参加し、各テーマについて熱心に協議しプロダクトをまとめた参加者各位に心から敬意を表する次第である。日本薬学会薬学教育委員会は本ワークショップのプロダクトとアンケート結果に基づいて、2023年度から具体的な活動を展開していく予定である。

2023 年 1 月 日本薬学会薬学教育委員会委員長 中村明弘

### 「学位(博士)取得者のキャリアデザインに関するワークショップ」プログラム

開催日時:2022年11月13日(日)9:00~17:00

開催形式:オンライン(Zoom)

主 催 :公益社団法人 日本薬学会 薬学教育委員会

参加者 : 学位取得者 29 名 (6 年制卒 23 名、4 年制卒 6 名; 男性 20 名、女性 9 名)

- ・長井記念薬学研究奨励支援事業採用者で学位取得者 17 名 (うち長井記念若手薬学研究賞受賞者 7 名;全国学生 WS 参加者 2 名)
- ・全国学生ワークショップ参加者で学位取得者 12 名

#### <プログラム>

- 8:30 参加者受付
- 9:00 開会あいさつ 日本薬学会 会頭 佐々木 茂貴
- 9:05 趣旨説明 日本薬学会 薬学教育委員会 委員長 中村 明弘
- 第一部 「博士を取得した私のキャリアデザイン」
- 9:20 作業説明
- 9:30 World Café
- 10:50 休憩
- 第二部 「私たちが歩んでいるキャリアで感じる課題と解決のアイデア」
- 11:00 作業説明
- 11:15 Small Group Discussion
- 12:30 昼食
- 13:20 発表・討論
- 14:20 休憩
- 第三部 「博士を取得した私たちがもつ未来の可能性」
- 14:30 作業説明
- 14:40 Small Group Discussion
- 15:40 休憩
- 15:50 発表・討論
- 16:30 意見交換
- 16:50 閉会あいさつ
- 17:00 自由交流

### 参加者グループ分け および 運営スタッフ等

#### Aグループ

# 一戸優美 鹿山 将 志田美春 瀬山翔史 中島孝平 吉田啓太郎

## Bグループ 朝倉充俊

相良篤信

田中達也

三宅 崇仁

柳津茂慧

#### Cグループ

磯田紀之
軽尾友紀子
小西成樹
志田拓顕
孕石梨愛
増渕龍一郎

タスクフォース:石田、武田香

山口奈美子 タスクフォース:大山、高橋

タスクフォース:大野、細江

Dグループ
-------

落合 翔
公文代將希
今 理紗子
澤本篤志
孫 雨晨
吉川望美

Eグループ

河合歩美
黒岩亮平
小林由希
原 崇人
松本卓也

タスクフォース: 菅原、松永

タスクフォース:武田真、徳山

佐々木茂貴	: ディレクター	(日本薬学会会頭)
中村 明弘	: 実行委員長	(薬学教育委員会委員長)
石田 竜弘	: タスクフォース	(薬学教育委員会委員)
大野 恵子	: タスクフォース	(薬学教育委員会委員)
大山 要	: タスクフォース	(薬学教育委員会委員)
木下 淳	: タスクフォース	(薬学教育委員会委員)
菅原 満	: タスクフォース	(薬学教育委員会委員)
高橋 秀依	: タスクフォース	(薬学教育委員会委員)
武田香陽子	: タスクフォース	(薬学教育委員会委員)
武田真莉子	: タスクフォース	(薬学教育委員会委員)
徳山 尚吾	: タスクフォース	(薬学教育委員会委員)
細江 智夫	: タスクフォース	(薬学教育委員会委員)
松永 俊之	: タスクフォース	(薬学教育委員会委員)
寺沢 静恵	: 事務局	(日本薬学会)
長 晃矢	: 事務局	(日本薬学会)

# 「趣旨説明」原稿

# 薬学教育委員会の活動

- ・薬学生の大学院進学促進
- ・若手教員の教育研究活動のサポート

現状は?ニーズは?

# 学位(博士)取得者のキャリアデザインに関するワークショップ

- ·長井記念薬学研究奨励支援事業採用者
- ・全国学生ワークショップ参加者 学位を取得してそれぞれの道を歩んでいる仲間と交流し、 今後のキャリアプランについて一緒に考える
- ・委員会としては議論の内容を今後の活動の参考に







現在の所属組織を代表する必要はありません。 博士取得後、独自のキャリアを歩んでいる個人と して、仲間との交流を楽 しんでください。



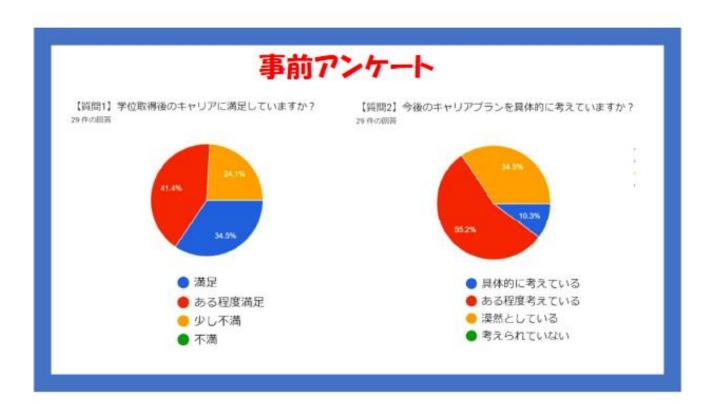
日曜日の開催ですので、 状況に成じて中座もある。 ことをご了承ください。

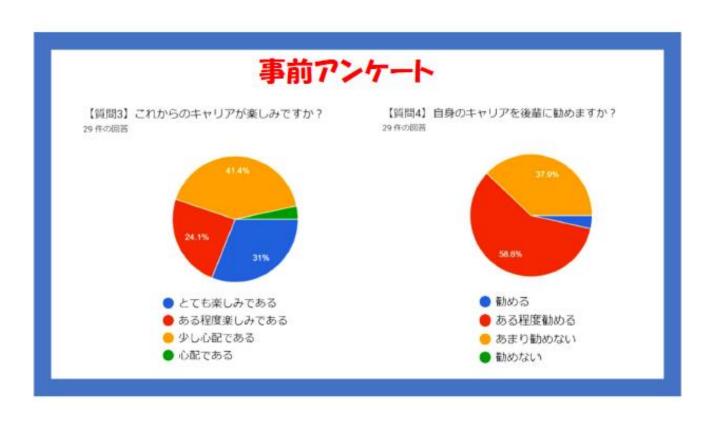






ワークショップでは 互いに「OOさん」 と呼びましょう





# セッション報告

# 第一部

「博士を取得した私のキャリアデザイン」









## World Cafeにようこそ



- ・皆さんは、ワークショップの世界を旅する 「旅人」 です。
- ・旅人は、出会った場所で"<mark>おしゃべり</mark>"や"落書き"をして、 また別の場所に旅立っていきます。
- ・旅をしながら3回のおしゃべりや落書きをします。
- ・今日の旅を思いっきり楽しんでください!



## Café Open



- ・4-5名のグループで「おしゃべり」と「落書き」を行います。
- ・テーマごとにメンバーを入れ替えます。
- ・テーブル毎に司会役の「テーブルマスター」がいます。
- ・1回のラウンドは20~30分で行います。ラウンドが終わると、 旅人(お客)は別のテーブルに移動します。

Cafeではフリートークを楽しみましょう

### World Cafeからのお願い 🌌



### 飲み物・お菓子の準備はセルフです

- ●積極的に「おしゃべり」をしましょう。
- ●話は短く簡潔に、1人1分以内でお願いします。
- ●それぞれの旅人の話に耳を傾けましょう。



●自由に落書きをしていきましょう





# **Table Master**のお仕事



- 1. 各グループの「おしゃべり」が盛り上がるように工夫してください。
- 2. 第1ラウンドでは、指定されたテーマでの「おしゃべり」の司会を お願いします。
- 3. 第2ラウンド以降では、旅人の「自己紹介」の前に、テーブルマスター から「前のラウンド」で印象に残ったお話しを1分で紹介して下さい。 その後、そのラウンドのテーマの「おしゃべり」の司会をして下さい。
- 4. 旅人は「おしゃべり」に夢中になる傾向があります。 旅人に「落書き(気付きや感想)」をするように促して下さい。

## Session 1



#### 「私が博士課程進学(博士取得)を選択した理由」

- ●ご自分の理由を皆さんに説明して下さい。
- 1分/1人
- ●テーマについて、自由におしゃべりして下さい。 <u>終わりまで</u>
- ●落書きも積極的に!!

Café time: 20-30分





#### 世界の旅はいかがでしたか?



# Session 2



#### 「私が現在の仕事を選択した理由」

- ●Session 1 の話題をテーブルマスターから聞いて下さい。
  - 1分
- ●自己紹介を兼ねて「Session1で印象に残ったこと」を 紹介して下さい。
- 1分/1人
- ●全員の紹介が終わったら、このテーマについておしゃべり して下さい。 終わりまで

Café time: 20-30分





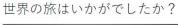
# Session 3 「私のキャリアプラン」

- ◆Session2の話題をテーブルマスターから聞いて下さい。 <u>1分</u>
- ●「Session2で印象に残ったこと」を紹介して下さい。 <u>1分/1人</u>
- ◆全員の紹介が終わったら、このテーマについておしゃべりして下さい。

終わりまで

Café time: 20-30分









# 第二部

「私たちが歩んでいるキャリアで 感じる課題と解決のアイデア」

# 作業説明





#### 平成 31 年 3 月薬系大学 6 年制課程卒業生就職動向 医薬品 区分 薬局 関連 企業 政・ 他 業種等 進学 その他 計 126 (26.1%) 145 (30.0%) 50 (10.4%) 483 (100%) 94 (19.5%) 35 (7.2%) 14 (2.9%) 国立 (3.9%) 230 (100%) 58 (25.2%) (4.8%) (9.6%) 67 (29.1%) 5 (2.2%) 公立 (2.6%) (26.5%) 4,268 (44.1%) 2,028 610 358 (3.7%) 152 (1.6%) 1,541 (15.9%) 9,687 (100%) 730 私立 (7.5%)(6.3%) 656 430 1,560 全体 (42.8%) (21.5%) (8.5%) (6.3%) (4.1%) (1.7%)(15.0%) (100%) 薬学教育協議会「薬系大学卒業生・大学院修了者の就職動向調査の集計報告」より

#### 薬学系大学院の現状と問題点

2020 年度 (薬系大学の入学定員約 | 万 1500 人)

- · 6 年制課程に基礎を置く博士課程進学者は 231 人 (内訳は国公立大学 55 人、私立大学 176 人)
- ・4 年制課程に基礎を置く<mark>博士課程進学者は 265</mark> 人 (内訳は国公立大学 212人、私立大学 53 人)

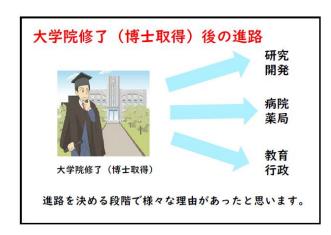
博士課程修了者のうち、試験・研究機関・大学に就職 するのは 3 割程度であり、大学の教育研究の担い手と して期待できる人数はさらに少ない。

このことは将来にわたって薬学の教育や研究体制を維持することすら困難になることを示している。

薬事日報【日本薬学会第 141 年会】会頭インタビュー記事 から引用









# 第二部

「私たちが歩んでいるキャリアで感じる 課題と解決のアイデア」





現在のキャリアにおける「課題」は ありませんか?

#### 第二部

「私たちが歩んでいるキャリアで感じる 課題と解決のアイデア」

#### これからの作業 (75 分 + α)

- 1. 司会、記録、発表の三役を決めて下さい。
- 2. 第一部におけるセッション1,2 を振り返り ながら、現在のキャリアにおける「課題」 をリストアップ して下さい。
- 議論の中で、「課題」に対する「解決の アイデア」が出されたら、併せて記載して 下さい。

# 第二部 「私たちが歩んでいるキャリアで感じる 課題と解決のアイデア」 「課題と解決のアイデア」 グループ名

	'課題と解決のアイテア」	グループ名
	課題	解決のアイデア
1	個人的な葛藤や迷い、団体・組 織の体制・制度的な問題など	議論の中で解決のアイデアが出 されれば記載して下さい
2		
3 .		
7.00		

#### 第二部

「私たちが歩んでいるキャリアで感じる 課題と解決のアイデア」

- 11:00 作業説明
- II:15 Small Group Discussion (75 分)
- 12:30 昼食 (SGD 時間に応じて)
- 13:20 発表 5 分・質疑 2 分 発表順 A・B・C・D・E 全体討論 20 分
- 14:20 休憩(10 分)
- 14:30 第三部開始

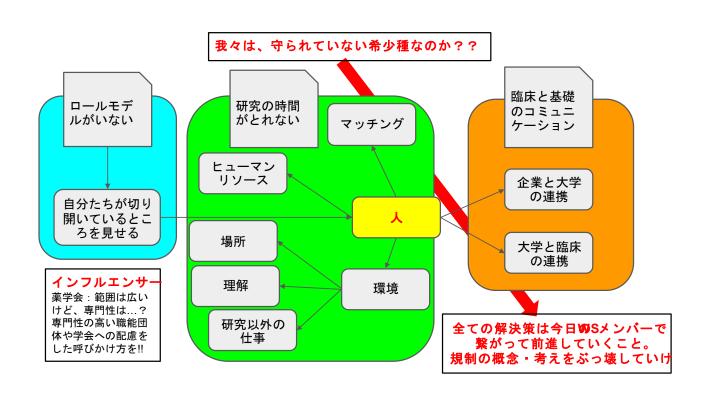
## Aグループ

### 第2部 私たちが歩んでいるキャリアで感じる課題と解決のアイデア

Gr A

## 「課題と解決のアイディア」

	課題	解決のアイディア
1	ロールモデルがいない	そもそも存在しない! 自分たちが切り開いていたことを見せる
2	研究の時間が取れない	人(ヒューマンリソース:指導者、共同研究者、マッチング) 環境(場所:レンタルラボ?、理解:ロールモデルを自分たちが見せることで理解が得られる?、研究以外の仕事:会議、教育、事務作業、薬剤師業務)
3	臨床と基礎のコミュニケーション	2が解決すれば、繋がってくるはず? 企業と大学の連携(お金等) 大学と臨床の連携(コラボ)



## キャリアの定義:博士課程修了後から今、困っていること。

- 職場復帰(産休、育休)。初めて、学位をとって産休、育休とっている。
- 研究しながら仕事をする。初めてのケース。
- ロールモデルがなく、仕事と育児を両立できるのか心配。
- 周りの理解を得るところから大変。あなた、何者?
- 基礎研究ばかり。臨床から基礎を拾いたいけど、臨床の知識がない。現場にいないと分からない。 仮説を立てても、現場で役に立つのか分からない。
- 臨床では研究ができない。大学病院なのに時間がとれない。
- 基礎を情報発信してもらわないと、基礎を知ることが難しい。
- 〇 浜松医科大の情報発信。
- 情報発信の難しさ。公表して良いレベルとダメなレベルが難しい。

#### 研究をやっていくうえで、困っていること

- 時間がいくらあっても足りない。突き詰めていきたい。教育や事務作業に時間をとられる。
- 基礎であっても時間が足りない。
- 多施設共同は、やれるところで!薬局単一では症例報告。
- 〇 産学連携。役割の明確化

誰がどの現場で、どういう研究していくか??

- O 研究が好きな人が集まっている。
- 研究に興味あるのか、薬剤師業務に興味あるのかで分かれている?
- 分からないことを調べるのが好き (研究が好きではない?)

#### 達成感 (学生の時)

- 分からないことが不安、分からないことが好き。
- 学位をとれたとき

## Bグループ

# 【博士取得前】

### 第2部 私たちが歩んでいるキャリアで感じる課題と解決のアイデア

Gr B

# 「課題と解決のアイディア」(<mark>6年制+4年:博士取得前</mark>)

	課題	解決のアイディア
1	<ul><li>- 金銭面の不安(4年間博士在籍時の学費、生活費)</li><li>- 社会人博士も、業務と並行した研究遂行が困難</li></ul>	- 以下の情報へのアクセスを増やす、情報共有 ・ 助成金リスト ・ 社会人博士の取得経験談 - (社会人博士)アカデミアから取得の手助け - ハードルの低い金銭面の援助(研究業績だけで評価しない)
2	<ul><li>博士進学者が少なくてロールモデルがない、お先真っ暗の印象</li><li>好奇心で進んでいいのかがわからない</li><li>博士をとっても「優秀な臨床薬剤師」などという狭い将来ビジョンしか見えていない人が多い(視野が狭い)</li></ul>	<ul> <li>学生がロールモデルから話を聞く機会を設ける</li> <li>情報開示して心理的な安定を与える</li> <li>「やっぱり博士に行けばよかった」という声も聞かせるべき         <ul> <li>かならずしも「成功」した人だけでなくていい</li> </ul> </li> <li>就活前くらいに学生に伝えるべき(複数機会あってよい)</li> </ul>

# 【博士取得後】

## 第2部 私たちが歩んでいるキャリアで感じる課題と解決のアイデア

Gr B

# 「課題と解決のアイディア」(博士取得後)

	課題	解決のアイディア
1	<ul><li>研究と業務とプライベートのバランスをとれていない</li><li>どうやって研究する時間をつくるのか</li><li>どうやって業績を稼ぐのか</li></ul>	- 上手くやっているロールモデルを参考にしたい - 組織の体制が大切でもある(学位を取ろうとす る人に学位取得者が共同研究者として指導する 等)
2	学生に教育するうえで、リアルな臨床現場の声 (臨床薬剤師の声) を見せてあげたいが、大学教 員が臨床現場に行けていない(臨床薬剤師も時間が無い)	病院薬剤師と大学教員が相互で臨床業務・教育・研究を実践できると良い (病院薬剤師の研究時間確保、大学教員の臨床業務 経験拡充)
3	任期の問題があり、学生にポジティブな面を見せることができていない(例:助教から企業転職しているケースもある)	定められた期間で仕事をこなす能力を磨ける場で あることを、学生に対しても強調できれば良い?
4	- 薬剤師-PhDが活きる場所が、大学病院薬剤部 くらいしかない - 他で研究するにも環境不足(倫理委員会等)	- 市民病院、薬局でもPhD所有者が活躍できるようになれればよい - 大学との柔軟なつながりを構築する

## Cグループ

## 第2部 私たちが歩んでいるキャリアで感じる課題と解決のアイデア

Gr C

## 「課題と解決のアイディア」

	課題	解決のアイディア
1	研究活動が難しく なる事がある (家庭環境、ライフ ステージ、任期の問 題 etc.)	・出産育児に関わる研究活動のサポートが不十分か。企業は努力傾向、大学において 課題となってくるか。制度はあるが、使用できない環境もある。育休よりも有休消化 を促す場合も。ロールモデル不足。 → 職場に子供を連れてこられる、職場に託児所がある、時短、リモート等 ・心配なく仕事や研究を続けられる環境が必要。学位を持つ事で約束されるキャリア?
2	キャリア中断による 課題	<ul> <li>臨床経験を一切積まなかった事が課題か</li> <li>・研究職と併せて薬剤師としての経験が無かったことで、薬剤師として生計をたてること、活動が難しくなる場合がある。研究のみという考えをさらに柔軟に考える必要があった。</li> <li>・臨床と研究の両立が必要と考える場面もある。学生に伝えられるように意識はしている</li> <li>・キャリアプランを考える中で、様々な経験や行動が必要となることも博士課程において希望に応じて臨床経験を積める環境やカリキュラム</li> <li>・学生に対するロールモデル不足</li> <li>・奨学金制度⇒臨床で働いてしまうと支給中断となることから研究職から離れられないことも。。。臨床経験を積めない要因ともなっている。</li> </ul>

## 第2部 私たちが歩んでいるキャリアで感じる課題と解決のアイデア

Gr C

# 「課題と解決のアイディア」

	課題	解決のアイディア	
1	ロールモデルの調査対象	進学率の調査は新卒のみ。社会人大学院生などの調査なし。 今後の多様なキャリアのために、これらの情報把握と啓発広報も必要 ではないか。 産休育休に関しても制度確立が必要となってくるか	
2	学生への啓発方法の検討が必要	ロールモデルは不足している。 進学後にどんな進路があるのかを示す ことができればキャリアプランを一層考えやすくなるのではないか。	
3	現代の学生の考え方に合わせた、 キャリアプランやロールモデル	学生が自発的に動ける制度があるといい? 資金が大切。 離 ア	
		て み ミ	

こういうものの薬学版があるといい?→

## 第2部 私たちが歩んでいるキャリアで感じる課題と解決のアイデア

Gr C

# 「課題と解決のアイディア」

	課題	解決のアイディア
	研究費	科研費、大学研究費用、実習生受入れ等による予算が現在挙げられる。
		どのように研究費用を獲得するかについて、学生が把握していない →知っておく必要がある。現実的に研究費用の取得とながれ、使用に関する
1		知識が必要。
		⇒研究費申請の経験をさせてみるのもいい。学会によってコンペ的な費用申請 も面白いのでは (学会旅費もらえるとか (/・ω・)/)
2	学位取得によるメリット	所得への加算などあるといい (臨床で働くにあたって)

## 第2部 私たちが歩んでいるキャリアで感じる課題と解決のアイデア

Gr C

# 「課題と解決のアイディア」

	課題	解決のアイディア
1	教員やメーカー、臨床現場 の情報共有	情報共有の橋渡し役や環境があるといいのでは(1人で何でもかんでも やるのではなく) 病院や大学組織の敷居を超えた対応ができると現実的 博士課程の薬剤師、学位を持った薬剤師の活動⇒教員とのコネクション も必要(資金も必要、個人のコネクションではなく所属でのつながり が必要)
2	勤務時間	学部教員では、カリキュラムに対する対応業務も多く、実際休みがとれないパターンもある。 臨床現場での研究活動が業務にならない事があり、時間外活動がある事は多い。

# D グループ

## 第2部 私たちが歩んでいるキャリアで感じる課題と解決のアイデア

Gr D

# 「課題と解決のアイディア」

	課題	解決のアイディア
1	・大学院博士課程修了後のキャリアプラン提示 の少なさ 将来をイメージ出来ず、進学へのメリットを 感じられない。	・大学、大学院における積極的提示活動の積極的 実施
2	・大学院博士課程在学時の経済的負担 奨学金が十分に支給されず、研究活動に専念 出来ない。 アルバイト等の負担が増える。	・奨学金制度に関する情報公開の充実 ・大学内における奨学金などの拡充 ・学費の免除・減額による入学者の増員
3	・後輩の育成困難 そもそも育成すべき後輩の絶対数が少ない。	・大学院博士課程への進学者の増員

## 第2部 私たちが歩んでいるキャリアで感じる課題と解決のアイデア

Gr D

# 「課題と解決のアイディア」

	課題	解決のアイディア
4	・雇用制度、任期付き制度の不備 次の職の保証がない 短期間の任期における一定数の業績が要求さ れる。	・研究分野によって、業績作成のための時間が異なるので、分野別による雇用制度の確立が必要 (研究選任教員として業績を積める制度など)
5	・ <b>認定・専門薬剤師の更新へのサポートが脆弱</b> 学会参加等の単位取得が困難である。	・オンラインによる参加システムの拡充 ・産休・育休制度は改善しつつあるが、職場内に おける周囲の理解の向上
6	・ライフワークバランスの確保が困難 研究・教育、業務、生活の両立が困難である。 研究以外の教育(講義・実習)、委員会業 務が多く、研究時間の捻出が困難である。 生活では子育ても関係してくる。	・秘書・Lab manager などの雇用促進 ・研究選任、教育選任教員などの担当分担の確立 ・子育て支援制度の拡充

### Eグループ

#### 第2部 私たちが歩んでいるキャリアで感じる課題と解決のアイデア

Gr E

## 「課題と解決のアイディア」

	課題	解決のアイディア
1	【薬学博士の課題】 時間をかけて取得した学位だが、就職先・ キャリアが不安定。 (例:任期が決まっている。研究費が少な く思うように進められない。)	研究費を確保する方法は探せば多くあるので、情報を 積極的に取りに行く。就職先も同様に、情報が少ない ので大学でも広めていく(学生も自ら取りに行く)。 一度外に出て(研究から離れて)戻るのも選択肢とし て考える。
2	【研究の課題】 業務時間外での研究が必要になってしまう。 目下の仕事と、今後のキャリアのための仕 事との線引きが難しく、プライベートの時 間をさく必要がある。	帰る時間を明確にする(コアタイムを決める)など、 自分(チーム)のルールをしっかりつくり、一人ひと りが考え行動する。
3	【家庭との両立の課題】 出産などによる仕事の制限の不安。	制度を制度のままにしている職場は、自ら改善すべき。 また周りにそのような人がいたらサポートする。 急なことにも対応できる体制を常に取っておく。 新しい体制・制度も検討する。

#### 第2部 私たちが歩んでいるキャリアで感じる課題と解決のアイデア

Gr E

## 課題 【時間との向き合い方】

#### 【博士としての将来の課題】

任期や研究費が少なく思うように進められないなど時間をかけて取得した学位だが、就職先・キャリアが不安定 研究費を確保する方法は探せば多くあるので、**情報を積極的に取りにいく**。

学生の就職も同様であり、情報を積極的に取りにいく。大学は情報発信のサポート体制を広める。 一度(研究から離れて)**外に出て戻るのも選択肢**として考える。

#### 【研究の勧める上での現在の課題】

目下の仕事と、今後のキャリアのための仕事との線引きが困難。

業務時間外での研究が必要になってしまう。プライベートの時間を割く必要がある。

帰る時間・マストの業務の終業を明確にする、など**自分(チーム)のルールを明確化**。 ひとりひとりが考え行動する。

#### 【家庭やライフイベントと両立する上での課題】

出産などによる仕事の制限の不安。

制度を制度のままにしている職場は、自ら改善すべき。**緊急対応できる体制を**常に取っておく。 また周りにそのような人がいたらサポートする。必要に応じて新しい体制・制度も検討する。

# 第三部

# 「博士を取得した私たちがもつ 未来の可能性」

# 計画的偶発性理論 Planned Happenstance Theory

スタンフォード大学のKrumbolts教授ら

Planned Happenstance: Constructing Unexpected Career Opportunities K.E. Mitchell, A.S. Levin and J.D. Krumboltz

JOURNAL OF COUNSELING & DEVELOPMENT (1999) 77, 115-124

- 人が進路選択を行う際、偶然の出来事が重要な役割を果たす。
- 偶然の出来事によって、本人も自覚していなかった新しい分野に対する興味が喚起され、 新しい事がらを学習する機会が得られる。
- 新たな発見が得られるような出来事に遭遇する機会を増やすようにし、偶然の出来事を うまく自分のキャリア形成に取り込むことが重要
- 予期しない出来事と遭遇する機会を増やすような方向で、将来に対してオープンマインドで望むべきである
- 偶然の出来事を自分のキャリア形成に取り込むためのスキル
  「好奇心curiosity」、「粘り強さpersistance」、「柔軟さflexibility」、「楽観性optimism」、
  「リスクテイキングrisk taking」が重要
- 新しい学習の機会を求め、挫折にもめげず努力を続け、態度や環境を変化させ、新しい 事柄を可能であると考え、不確実な結果に向けた行動をとれることを重視

出典:下村英雄、菰田孝行「キャリア心理学における偶発理論」、心理学評論、50.384-401(2007)

2

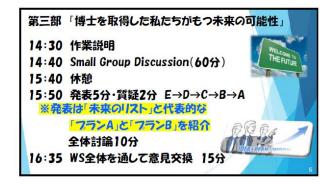


# 「博士を取得した私たちがもつ未来の可能性」FUTURE

これからの作業(60分)

- 1. 司会、記録、発表の三役を決めて下さい。
- 2. 10年後、「誰の」、「どんな課題」の解決に取り組んでいる 可能性があるかをグループでリストアップして下さい。
- 3. 自身の未来を選択し、3~4年後、6~7年後、10年後の キャリアを描いてみて下さい(プランA)。
- 4. プランAとは別の未来を選択し、同様に3~4年後、6~ 7年後、10年後のキャリアを描いてみて下さい(プランB)。
- 5. プランAとプランBをグループ内で共有してください。

※時間配分の目安:2で20分、3と4で15分、5で25分















# Aグループ

## 【代表的なキャリアプラン A】

## 第3部 博士を取得した私たちがもつ未来の可能性

Gr A

誰の	どんな課題	内容説明	
<b>薬学生</b> 、患者、 薬剤部職員	将来の進路選択、抗菌薬適正使用、 薬剤耐性菌、感染症治療への貢献	研究・臨床双方の内容を教えられるようになる、 基礎研究の継続と感染症治療のスキルの向上、 教育など社会への還元	
	代表的なキャリ	アプラン A	
10年後	学生教育に携わる、薬学部の教員、実務経験の継続 (専門、認定の維持) と基礎研究の実施、基礎と臨床のかけはしになる		
6~7年後	学生教育に携わる、基礎研究、臨床研究の実施、他施設との連携 (薬学部の教員?)		
3~4年後	学生教育に携わる業務での経験を実務実習生へ還元、教職員への感染制御関連に関する 指導、基礎研究、臨床研究の実施		
現在	感染制御部専従薬剤師 感染制御専門薬剤師 抗菌薬適正使用、感染対策運営、 基礎研究の環境の基盤作り		

# 【代表的なキャリアプラン B】

## 第3部 博士を取得した私たちがもつ未来の可能性

Gr A

誰の	どんな課題	内容説明
薬剤師	臨床業務と臨床研究を行うことが できる病院 <b>薬剤師の育成</b>	育児、仕事、薬剤師は研究者である、緩和
	代表的なキャリフ	プラン B
10年後	緩和薬物療法認定薬剤師の資格を活研究指導している、キャリアについ 多職種連携達成	かして活躍 <b>いてどこかで自分の内容を紹介できている</b>
6~7年後	緩和薬物療法認定薬剤師取得 研究・研究指導をやや拡大して行えている 多職種連携のベースを形成する	
3~4年後	<b>育児と仕事の両立</b> を行い軌道に乗っている <b>後</b> 研究・研究指導を細々ながら継続して行っている 薬剤師の研修会にて知識を還元する	
現在	育児と仕事の両立の開始 (不安)	

# 【キャリアプラン C: 希少種】

# 第3部 博士を取得した私たちがもつ未来の可能性

# 希少種 Gr A

誰の	どんな課題	内容説明
生命科学の実験者	実験者間の誤差	実験操作を自動化し、再現性向上による実験量の 削減、研究スピードアップを実現する。

	キャリアプラン C		
10年後 培養肉のコストダウン技術から派生した研究自動化システムの普及			
<b>6~7年後</b> 培養肉のコストダウン技術の再生医療への適応に従事			
3~4年後	培養肉のコストダウン技術の普及に従事		
現在	培養肉のコストダウン技術の開発に従事		

# Bグループ

# 【代表的なキャリアプラン A】

### 第3部 博士を取得した私たちがもつ未来の可能性

Gr B

誰の	どんな課題	内容説明
薬学生/薬剤師 (最終的に患者の)	薬学部卒業生の博士学位取得	薬学部において博士号を取得する学生が少ない ため、その取得率をあげる

代表的なキャリアプラン A		
薬学部教員と病院薬剤部併任 (基礎 + 臨床研究) 10年後 *薬学部卒業生・臨床薬剤師が心理的・物理的アクセス問題なく、取り組めるような プラットフォーム構築 * 孤立せず独立する		
<b>6~7年後</b> 薬学部教員と病院薬剤部併任 (基礎 + 臨床研究) * 博士学位取得者と研究を発展・継続		
薬学部教員と病院薬剤部併任 (基礎 + 臨床研究) 3~4年後 * 毎年、博士学位取得支援 【CQ (クリニカルクエスチョン) →RQ (リサーチクエスチョン) 化→プロトコル立案→研究→論文発表】		
現在	薬学部教員	

## 【代表的なキャリアプラン B】

## 第3部 博士を取得した私たちがもつ未来の可能性

Gr B

誰の		どんな課題	内容説明
薬剤師	研究な	が進むような体制づくり	現在、学位取得後に薬剤師が活躍できる場所が、大学病院 薬剤部くらいしかない。他で研究するために必要な環境 (倫理委員会 等)を支援する。
	代表的なキャリアプラン B		
10年後		連携を通じて、「この職場でしかできない」を無くすことで 誰でもクリニカルクエッションの発見とその解決ができる組織が複数完成する。	
6~7年	後	共同研究のように連携して、他機関との共同研究チームでの研究活動。	
3~4年後		複数名のチームで研究活動を継続。ロールモデル周知のために団結。 全スタッフが時間内で業務終了。	
現在		薬剤師は自分ですべて研究している。博士号をもった薬剤師がバラバラ。 業務時間外の残業が終わってから、研究活動をしている。	

# Cグループ

# 第3部 博士を取得した私たちがもつ未来の可能性

Gr C

10年後	誰の	どんな課題	内容説明
1	学生、教員、 患者	医療や医薬品がより 高度になっている	<ul><li>・ベーシックな知識や薬学教育で対応できるのか?</li><li>・臨床や基礎という垣根がなくなるのではないか?</li></ul>
2	臨床で働く 薬剤師	臨床で研究できる 環境を整える	<ul><li>研究が仕事になるような状況にしたい</li><li>職場の人員が学会発表できるような支援の実施が重要</li><li>病院薬剤師として臨床研究を進めていけるロールモデル</li></ul>
3	アカデミア、 研究所、臨 床の研究者	途切れることなく 研究活動を続ける	・人員、設備などの研究環境 ⇒人材育成が重要 ・学生の進路選択のきっかけづくりになるような教員に ・短期的・長期的な研究計画
4	アカデミア、 研究所、臨 床の研究者	AIやドローン、 Amazon薬局が躍進	・Al等のツールの利用について課題がある?

## 第3部 博士を取得した私たちがもつ未来の可能性

誰の	どんな課題	内容説明
研究者としての自分	研究活動の継続	10年後も大学教員として研究と教育活動をつづけている。

キャリアプラン A		
10年後	複数の研究テーマで学会発表(研究の幅が広がっている)。	
6~7年後	ライフワークとなる様な長期的な研究課題に着手する。 昇進はこの時期には確実にしていたい。	
3~4年後	安定した研究費の獲得。	
現在	自分の研究計画で研究費が取れていない。	

## 【キャリアプラン B】

誰の	どんな課題	内容説明
大学教員としての 自分	化学に興味を持った 人材(学生)の育成	研究活動に興味を持ってくれる学生をどうやって育てるか

キャリアプラン 🔒		
10年後	大学院生の学位取得	
6~7年後	大学院生の育成	
3~4年後	この頃に最初の卒業生を輩出。 学生にあった研究テーマを開発していく。	
現在	現所属ではまだ研究室配属が行われていない。 授業を通して学生に化学の面白さを伝える。	

## 第3部 博士を取得した私たちがもつ未来の可能性

誰の	どんな課題	内容説明
大学教員としての 自分	継続的な研究計画と人材育成	アカデミアでのキャリアを続けていくためには、 継続的に研究成果が求められる。また、この成果 を生み出すには同時に人材育成能力が必要。

	キャリアプラン A
10年後	・講師以上の職階への昇進を目指す。 ・1年に1報の論文報告は継続するが、より長期的な大きい成果に繋がる研究の計画・実施
6~7年後	・講義を担当することで、1対1ではなく集団に薬学教育を提供する ・1年に1報の論文報告は継続するが、より長期的な大きい成果に繋がる研究の計画・実施
3~4年後	・助教から講師の昇進を目指す。 ・1年に1報の論文報告は継続するが、より長期的な大きい成果に繋がる研究の計画・実施
現在	・昇進ステップとして、1年に1報は論文報告 ・学生と協働的に実験を実施し、学生の近くにいて教育を行う

# 【キャリアプラン B】

誰の	どんな課題	内容説明
病院薬剤師としての 自分		アカデミアでの研究が継続出来なかった場合の 次のキャリアプラン

	キャリアプラン 🚦		
10年後	・専門性を深める		
6~7年後	後・認定・専門薬剤師を取得する		
3~4年後	・臨床上の問題点を抽出し、研究を開始する。		
現在	・臨床経験が無いため、まずは知識をおさらいするところから ・病院薬剤師になる事に向けて、就職活動		

## 第3部 博士を取得した私たちがもつ未来の可能性

誰の	どんな課題	内容説明
自分とこれからの 時代を担う学生	研究と教育活動の両立	アカデミックでの研究を続けていくためのステップ アップをどのように組むか

	キャリアプラン 🛕
10年後	研究と教育活動の両立を継続、キャリアデザインを考えると講師以上に昇進できていること を目標としたい。
6~7年後	教室の教授が退官されるので、大学は変わらずとも新たな職場・研究環境に変わっていく ターニングポイント、動物実験などの実験で成果を出すなど、研究の幅を広げておきたい。
3~4年後	今手がけている自身の研究 (博士後期課程からの研究も含め)の成果を1~2年スパンで論文に。 学部の授業なども担当するように?次の若手研究の採択は必須か。
現在	教員4年目。コロナ禍の中、ようやく学生実習、卒論研究の指導などの学生教育と自らの研究のバランスが取れてきたか?有機合成だけでなく動物実験の修得にも挑戦中。

# 【キャリアプラン B】

誰の	どんな課題	内容説明
薬学に興味・疑問 を持つ人	サイエンスコミュニケーション	薬学の研究のあり方をどう伝えるか

キャリアプラン 📙	
10年後	サイエンスコミュニケーターのような仕事も参考に、わかりやすく研究を伝えることができる?
6~7年後	高校生のように将来を考える人に仕事も参考に、わかりやすく研究を伝えることができる?
3~4年後	6年制の学生にも研究の話や将来性を伝えることができる?
現在	生命創薬科学科の学生には自身の話はできるが臨床経験がないためそれ以上の話はできていない。6年制の学生に研究の面白さ、大事さをあまり伝えられていないか。

## 第3部 博士を取得した私たちがもつ未来の可能性

誰の	どんな課題	内容説明
学生、教員、 薬剤師、患者	医療や医薬品がより高度になっている (新規モダリティ:タンパク質、核酸、 細胞治療などなど)	<ul><li>・ベーシックな知識や今日の薬学教育で対応できるのか?</li><li>・現在の臨床・基礎という垣根のままでよいのか?</li></ul>

	キャリアプラン A
10年後	細胞治療なども「薬」として、薬剤師が関わっていくことが当たり前の医療環境へ。
6~7年後	基礎を臨床と絡めた学生教育。まだ実用化されていないが臨床研究に進んでいるような 「これからの医療」を学生や薬剤師に教育する。
3~4年後	新規モダリティが医療現場に本格的に出始めていく。
現在	大学において遺伝子治療、細胞治療などの新モダリティは「基礎研究」的(実用化され 始めているのに・・・) 臨床で的確に対応できる薬剤師は少数

## 【キャリアプラン B】

誰の	どんな課題	内容説明
臨床で働く 薬剤師	臨床で研究できる環境を整える	・研究が仕事になるような状況にしたい ・職場の人員が学会発表できるような支援の実施が重要 ・病院薬剤師として臨床研究を進めていけるロールモデル

キャリアプラン 🛢	
10年後	大学と臨床の人材交流の形で人の行き来を促進できるようなロールモデルに。 (大学教員:病院に出向して臨床経験を積む。臨床家:大学で研究に集中的に取り組む 期間を作る。など)
6~7年後	臨床を行いながら、実務家教員等として研究・学生教育のポストも併任する。 研究する薬剤師がいると良い、ということを示す研究をする。
3~4年後	臨床薬剤師への研究の教育。必ずしも学位に繋がらなくてもよい。個人の環境で無理 なくできるテーマ・体制構築、支援を行う。
現在	薬剤師のキャリア形成において研究の重要性は向上している。一方で研究のポストを 持ちながら臨床で働ける薬剤師は少数。

## 第3部 博士を取得した私たちがもつ未来の可能性

誰の	どんな課題	内容説明
薬局薬剤師	・研究できる環境づくり ・キャリア中断・転職者の支援	・希望者が学会発表がしやすい環境を作る ・今回の課題→キャリアを提案できる

キャリアプラン 🔥		
10年後	地方薬局でも研究活動ができる環境を整える	
6~7年後	育児と並行して働ける模索、ロールモデルづくり 人材の限られた環環でも負担少なく働くことを可能に リモートでの働き方模索	
3~4年後		
現在	一(状況把握)	

# 【キャリアプラン A】

誰の	どんな課題	内容説明
臨床薬剤師、	業務としての	現在、研究活動が大学病院の薬剤師業務においても一般的と言える環境では
学部生	研究活動	ない。研究活動の定着のためにも現場での実例作成と学生の意識改革が必要

キャリアプラン 🛕	
10年後	薬剤師での業務として、調剤についての重点(意識)が変化していることが考えられる。 処方監査、病棟業務、研究活動が柱となるように活動し、後輩育成を行っていく。
6~7年後	業務において、薬剤部に臨床研究をしていることが定着。薬剤部枠での研究費用の取得を目指す。 チーム医療の中での臨床研究に薬剤師が関わっていく(学位取得が研究活動への信頼証明となるか)
3~4年後	実際の患者データを用いた臨床研究の実施(アロマテラピーでの前向き研究)。医師、看護師の協力と理解も得られる環境が必須であり、他職種とのコミュニケーションもとっていく。実務実習生への指導においても臨床での研究活動について実例紹介ができている。研究活動の業務時間介入や手当付加等の打診。
現在	学位取得後に、より臨床研究がすすめやすい環境の施設へ移動。薬剤師が行う前向き研究を進めていくために、院内の職員への研究活動の啓発を行う(アンケート調査などにより、興味のある職員の抽出、研究活動のしやすい部署の選定、薬剤師による臨床研究の啓発)

# D グループ

# 第3部 博士を取得した私たちがもつ未来の可能性 (全体の意見をまとめたリスト)

Gr D

10年後	誰の	どんな課題	内容説明
1	6年制学生	研究と臨床が中途半端(研究環 境をもっと整えるべき)	6年制教育の中で臨床コース・研究コースに分かれて、それぞれを深化させる
2	研究現場 臨床現場	人材育成の観点では、双方の現 場の意見が共有されていない	双方の現場の声・意見を共有する。双方のロール モデルを知る機会をつくる
3	臨床現場 の薬剤師	研究時間の捻出、業務効率化を 図り薬剤師の研究力養成	PhD取得や、研究活動の活性化を図る
4	臨床現場 の薬剤師	・業務の標準化 ・業務の変遷への対応	医師のタスクシフトやAIの導入等に適応していくための業務の標準化や業務の変遷への対応が必要。これをPh.D取得者が先陣を切ってやるべき
5	人類 • 社会	<ul><li>・生化学の発展に寄与</li><li>・現代社会にある医療の課題</li><li>・個別化医療の実現</li></ul>	医薬品ベンチャー企業の設立 Ph.D取得者が起業する 治療法が無い疾患に対する新規治療法の開発
6	医療を 志す子達	誰もが最先端の教育・知識を得 るのは困難	世界的な教育プラットホームの構築

# 【代表的なキャリアプラン A】

# 第3部 博士を取得した私たちがもつ未来の可能性

Gr D

誰の	どんな課題	内容説明
人類	肥満と寿命の関連性の解明	脂肪組織の線維化が寿命の引き金

代表的なキャリアプラン A		
10年後	医薬品ベンチャー企業の設立	
6~7年後	PI,基礎研究,臨床研究	
3~4年後	基礎研究(海外留学)	
現在	基礎研究	

# 【代表的なキャリアプラン B】

# 第3部 博士を取得した私たちがもつ未来の可能性

Gr D

誰の	どんな課題	内容説明
医療を志す子達	全世界共通の大学	だれでも学びたいときに最先端の教育・知識が得られる

	代表的なキャリアプラン B	
10年後	インターネットを通じてだれでもいつでもアクセス可能な教育プラットホームの構築	
6~7年後	世界的な教育プラットホームの構築	
3~4年後	Ph. D.取得者の賛同を得る(領域の拡充)	
現在	Ph. D.取得者の賛同を得る	

# 第3部 博士を取得した私たちがもつ未来の可能性

Gr D

誰の	どんな課題	内容説明
家族	ワークライフバランスを考えた生活	家庭の時間を大事に過ごす。

	代表的なキャリアプラン B
10年後	エリアマネージャーとして活躍するため、奔走する。子供との時間が取れずにもがく。
6~7年後	子供ができる。店長を任される。でも定時で上がりたいと思っている。
3~4年後	婚約する。これを機にドラッグストアに転職。
現在	29歳、独身。

# Eグループ

# 第3部 博士を取得した私たちがもつ未来の可能性

Gr E

10年後	誰の	どんな課題	内容説明
1	医療体制	恒久的な医療体制、最適な薬物 治療の提供	提供システムの構築
2	次世代	育成、伝承	時代に併せた次の薬学を担う人材の教育
3	公衆衛生	世界中の人のヘルスケア	企業:治療効率の悪い疾病の削減 自治体:Society5.0の実現
4		アカデミアでのそれぞれの研究	

# 【代表的なキャリアプラン A】

# 第3部 博士を取得した私たちがもつ未来の可能性

Gr E

誰の	どんな課題	内容説明
世界中の人 (会社の)	健康維持(維持・成長)	適切な栄養素を届け、人々の健康に貢献する (売上を伸ばす)

代表的なキャリアプラン A		
10年後	日本の管理職として戻る(人を育てる)	
6~7年後	海外(EU)の同事業部ラボにて世界の技術サポート経験	
3~4年後	海外(アジア)の同事業部ラボにてアジアの技術サポートを経験	
現在	日本にて技術営業	

# 【代表的なキャリアプラン B】

#### 第3部 博士を取得した私たちがもつ未来の可能性

Gr E

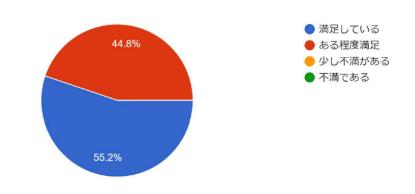
誰の	どんな課題	内容説明
世界中の人 (会社の)	健康維持(維持・成長)	適切な栄養素を届け、人々の健康に貢献する

代表的なキャリアプラン B		
10年後	国内の大学(薬学部)で非常勤講師 + ドラックストアで薬剤師業務	
6~7年後		
3~4年後	海外の同事業部ラボにてアジアの技術サポートを経験	
現在	E 日本のニュートリション&ヘルス事業部にて技術営業	

# 事後アンケート結果

#### 事後アンケートの結果について

【質問1-①】ワークショップは満足できる内容でしたか?



満足している:16人(55.2%) ある程度満足している:13人(44.8%)

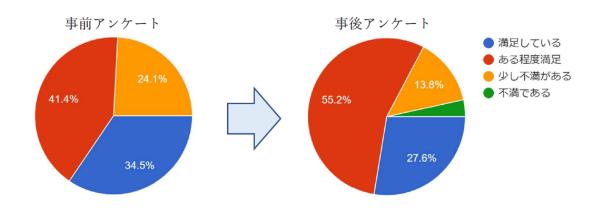
【質問1-②】質問1に関して、その他ご意見等ございましたらご自由に記述してください。

- ・多様な経歴や経験をもつ方の話を聞けて、大変興味深かったです。
- ・zoom 会議のため、参加ができました。本当は直に会って空気を共有するのが一番ではありますが、 zoom という選択肢が今回用意されたこと、とてもありがたかったです。
- ・新たなつながりのきっかけになりました。
- ・遠慮せずに話すことができるので、WSは楽しかったです。
- ・いろいろな境遇の人と話すことができました。
- ・いつもはなかなか会えない学位取得者の方と交流できてよかったです。刺激になりました。
- ・横のつながりが欲しかったので、同じような境遇の若手に出会え、有意義であった。
- ・参加する前は、長丁場だなと思っていましたが、いざやってみると時間が足りないと感じるくらいで、とても充実した会を過ごせました。(終わった後はちょっと疲れを感じましたが…笑)会終了後に自由に交流する時間を与えていただいたことも、ありがとうございました。強いてあげるならば、最後のセッションのキャリアプランを考えるところで、個人の非常に具体的なことに寄せて考える人と、もう少し全体的な広い視点で抽象的に考える人とで解釈が分かれているように感じられ、議論を深めにくかった印象がありました。
- ・私は今後のキャリアに対して少しネガティブに捉えているのに対し、皆様の意識が非常に高く感じて 気後れしてしまいました。博士号取得者として到達すべき位置に達していないと感じ、自分の今後のキャリアを早急に見つめ直すべきだと痛感いたしました。
- ・ブレイクルームでも課題のスライドが見れるとよかったと思いました。
- ・コロナ禍の閉塞した時代の中、多様な職種の博士取得者との対話で色々な気づきが得られました。特

に、基礎研究に重きを置いて研究を行ってきた分、臨床に繋がる出口戦略をもっと練る必要があると感じました。

- ・充実した時間を過ごすことができましたが、スケジュールが詰めこまれているように感じました。 World cafe を短くする、あるいはタスク量を減らすなどして、もう少し時間にゆとりがあるようなスケジュールであるといいと思いました。
- ・一つの課題に対する話し合いの時間が短いように感じた。
- ・薬学分野の博士取得者と議論できる機会となりとてもよかった。
- ・育児で開催地に向かうことが困難なので、zoomでの開催が有り難かったです。 自宅のネット環境が不安定であったり途中所用があったり等、十分に参加できませんでしたが、同世代 の学位取得者の方と関わる貴重な機会をいただき今後のキャリアを考える参考になりました。
- ・zoom 開催は遠方・子育て中でも参加できるので、とても有り難かったです。PhD 取得者の交流の場としては満足しています。貴重な機会を設けていただき感謝しています。

#### 【質問2-①】学位取得後のキャリアに満足していますか?



満足している:8人(27.6%) ある程度満足している:16人(55.2%)

少し不満がある: 4人(13.8%) 不満である: 1人(3.4%)

【質問2-②】質問2に関して、その他ご意見等ございましたらご自由に記述してくださ

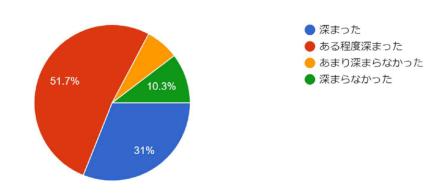
V20

- ・研究が続けられて毎日楽しいです。
- ・参加されていた方々がみんな高いレベルでキラキラしていて、私も、自分で選んだ道で頑張る道標をも らいました。
- ・発見した課題を解決するために自分が貢献できることにコミットできているため。
- ・今の職場環境は、学位取得によるものだけではないと思っています。
- ・大学で助教をしていますが、給料が安すぎることに不満があります(薬学会の問題ではないですが…)。 優秀な友人が、給料を理由にアカデミアへ進学を全く考えないという状況は早急に改善しなければな らないと思います(誰がどこにどう交渉すれば上がるのかわかりませんが)。
- ・妊娠出産を経たことで今後のキャリアに不安があるため。
- ・現状に満足していてはいけないと感じた。
- ・今のキャリアに概ね不満はないものの、学位を取ったことをきっかけに何かが劇的に変わったという ような実感もないというのが実情です。
- ・運良くチャンスをいただいて、現在のポジションにおりますが、自身の博士号取得者としての資質の無さから、このような贅沢なポジションにいていいのかという疑問と、反面、せっかく時間をかけて博士号を取得したのに、修士や学士でも可能な職位に就いていることに対する不満などが入り混じっており、今回は皆様の現状を変える意識の高さやキラキラしたキャリアの話を伺って、さらに自信がなくな

ったと思います。

- ・アカデミアのポストで研究を継続するチャンスが得られた点は満足しています。その一方で、これから のキャリア形成に不安を感じる点もあったので、本ワークショップに参加しました。
- ・企業への就職が第一希望だった。
- ・現在でも研究職は続けられているが、運が良かっただけで綱渡りだったと思う。
- ・出産や育児に伴う事情により、大学院進学時に想定していた卒後キャリアとはかけ離れていますが、今 後の不安を除くとある程度満足しています。
- ・事前アンケートでも同様の質問がありましたが、何をもって満足か不満かを判断するか、個人的価値観の影響が大きい質問だと思いました。このアンケートデータをみて、主催の先生方が何を考察し、データをどのように生かす予定なのかを教えていただきたいです。質問 3,4,5 に通じますが、今回の WS に参加して、学位を取得しようがしていまいが、キャリアや人生に満足するかどうかはその人次第だと感じました。
- ・臨床現場では、学位を取得した薬剤師の扱いが未だに位置づけされていない。今後の実例となるように 努めていきたい。

#### 【質問3-①】今後のキャリアについて考えが深まりましたか?



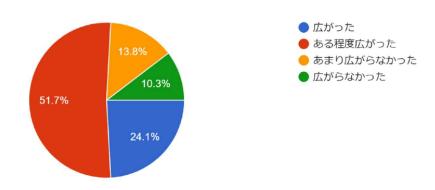
深まった:9人(31.0%) あまり深まらなかった:2人(6.9%)

ある程度深まった:15人(51.7%) 深まらなかった:3人(10.3%)

【質問3-②】質問3に関して、その他ご意見等ございましたらご自由に記述してください。

- ・皆さん、総じてスペシャリストですが私も含めまだまだ若手なので、今後中堅、大御所になる途中で、 広い世界の視点をもつよう研究や業務では得られない人生経験をもっと積んでいくべきと感じました。
- ・ロールモデルがない中で開拓するのがロールモデルであると気づいたので、これからは色々な分野の 開拓者もロールモデルとして参考にしようと思いました。
- ・現場経験の有無で、基礎系と臨床系の道が分かれるのは知れたのですが、それ以上の情報が出てこなかったです。
- ・子育てしながら、学位をもつ女性薬剤師はなにができるのかという疑問がさらに深まった
- ・諸先輩方のキャリアへの考えを知ることができた。
- ・私のような後ろ向きな方はおらず、私なりに現状を見つめ直して改善しようと試みているつもりではありましたが、考えが足りなさすぎることに恥ずかしさを感じました。どこから改善したら良いかまだわかりませんが、博士号取得者として恥ずかしくないように、今後のキャリアについてもっと真剣に考えることから始めたいと思います。
- ・個人の職場の環境や生活などによっても現状でベストなキャリア形成や置かれた状況も様々で、今の 自分の環境の恵まれた点、逆に改善すべき点やもっと取り組むべき点などを整理することができまし た。
- ・任期制とはいえ、今後のキャリアをある程度考えておかなければいけないと強く感じた。
- ・薬学の博士課程として考えるべきロールモデルとしての役割を認識できた。
- ・WSの振り返りを通して深まったように思います。また、乳幼児がいる、似たような境遇の先輩方と交流を持つきっかけになり、より考えが深まりました。
- ・「深まった」と「広がった」を分けて聞かれているのが難しいと思いました。

#### 【質問4-①】今後のキャリアについて考えが広がりましたか?



広がった:7人(24.1%)

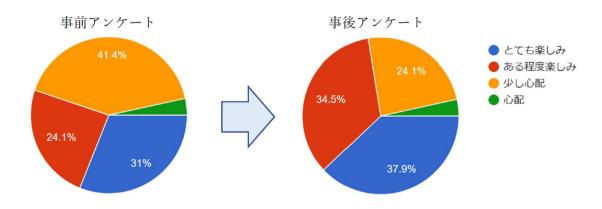
ある程度広がった:15人(51.7%)

あまり広がらなかった:4人(13.8%) 広がらなかった:3人(10.3%)

#### 【質問4-②】質問4に関して、その他ご意見等ございましたらご自由に記述してください。

- ・問題点や将来の展望などはたくさんの気づきがありました。が、キャリアとしての話はやはり 10 年前 の自分が知る限りの業界話と変わらないと思いました。やはり、わたしたちがモデルロールになること は必須です。
- ・出産や育児について参考になりました。
- ・現場から大学に呼んでもらうにはどうしたら良いか?聞く機会が無かったです。
- ・4年制卒で基礎研究をやっている方々と深い話ができればよかったなと思いました。
- ・同じ境遇の人が少なかった。
- ・様々な視点を知ることができた。
- ・自分とは違う領域で仕事をされている方の、キャリア展望などを聞くことができたので良かったです。
- ・4 年制の薬科学博士を取得して現在のキャリアに至り、同年代の6年制の博士号取得者のキャリアや問 題意識などを共有する機会に乏しかったので、貴重な経験を得られました。
- ・自分と同じ職種や他の職種の考え方や薬剤師としての根本的な役割みたいなもとを改めて気づくこと ができた。
- ・海外留学のメリット・デメリットを聞くことができた。(留学後、日本でアカデミアのポストを見つけ るのが難しい、かといって留学先でポストを見つけるのも難しい。大きいジャーナルにファーストの論 文がないと厳しい、などなど)
- ・他分野の薬学博士とのコラボレーションを行うと面白そうだなと今回の集まりを通して感じた。
- ・様々な職種の方と不安や問題点を共有でき、考えが広がったように思います。
- ・博士取得後のキャリアといっても、多彩な分野に進む人がいることが分かり、一方で分野が違えど、抱 える問題点は共通であることが分かりました。
- ・臨床現場で、学位を活かしていくという目標を考えるなかで、様々な職種の薬学部出身の人と意見交換 ができたことが様々キャリアデザインを考えていくうえで良い機会となった。

【質問 5-①】これからのキャリアが楽しみですか?



とても楽しみ:11人(37.9%)

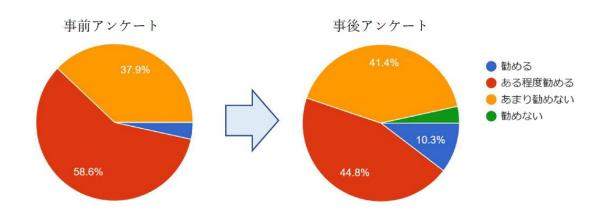
ある程度楽しみ:10 人(34.5%)

少し心配である:7人(24.1%) 心配である:1人(3.4%)

#### 【質問5-②】質問5に関して、その他ご意見等ございましたらご自由に記述してください。

- ・最後に出た、起業という考え方は、私の考えている方向性と合致します。今まで使っていた知識、常識 だけでは全く立ち向かえない、「起業」というアクション、領域には強く、キャリアデザインとしての 可能性を感じます。
- ・楽観しているというよりは、不確実な世の中で生き抜いていけるように毎日(今)を充実させている(後 悔のないように生きている)ので、その点では十分と考えています。
- ・幸いなことに、医学部や薬剤師会から講演依頼をいただけるようになりました。自分の夢に少しずつ近 づいている感じがします。
- ・心配な部分と不安な部分がある。
- ・若手のうちにやれることをやっておきたい。
- ・新しいフィールドを見据えているので、そういう意味で楽しみな気持ちはあります。
- ・プランドハップンスタンス理論にあるように、楽観性や人との出会いを基に新たなキャリアが開ける 可能性もあるので、今回のワークショップのように積極的な参加が大事になると感じました。
- ・同世代の薬剤師の話を聞けて、とても楽しみになりました。また、自分も頑張らないといけないと思い ました。
- ・種々課題や葛藤はありますが、ひとつひとつ一生懸命取り組みキャリアを拓いていければと考えます。
- ・不安要素が多いが、自分が抱えている悩みは他の人も抱えているかもしれないと考えることができた ので、少しは楽しみになった。
- ・安定的に今のポジションが続くかは不安がある。
- ・数年後の近い未来のおおよそのプランはありますが、育児と両立して行っていけるかどうかといった 不安があります。また、学位取得を活かした仕事ができるかどうかという点も不安に思っています。
- ・事前アンケートでも同様の質問がありましたが、何をもって楽しみか心配かを判断するか、個人的価値 観の影響が大きい質問だと思いました。

#### 【質問6-①】自身のキャリアを後輩に勧めますか?



勧める:3人(10.3%)

あまり勧めない:12人(41.4%)

ある程度勧める:13人(44.8%)

勧めない:1人(3.4%)

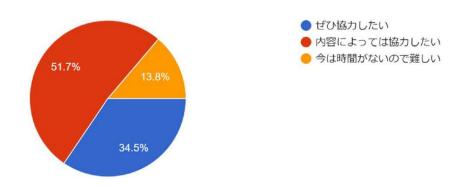
【質問6-②】質問6に関して、その他ご意見等ございましたらご自由に記述してください。

- ・結婚して、出産して、研究ができなくなっても、その能力を発揮する場はいくらでもあること、考え方 を変えれば、世界は広く自分たちの前にあることを肌で感じました。
- ・成功事例を真似したからと言って成功するとは限らず、現在のキャリアの運的要素を考慮すると、参考 程度にしてほしいと思います。
- ・最後の交流会「ここに残っているメンバーって、それぞれの分野でとてつもなく優秀な人材のはず。それゆえに、大変な経験をしている。だから、後輩に薦めようとしないんじゃないか?」という意見がありました。同意見です。
- ・やりたいという学生の後押しをしたいと思っている。
- ・自身のキャリアに不満や後悔はそう無いものの、後輩が同じような選択をしたからといって同じようなキャリアを歩めるとも限らないし、ましてそれでハッピーかどうかも分からない。博士後のキャリアともなると多様性も大きく、単純にある人の歩みをそのままトレースする、勧めるという考え方自体に少し無理があるのかもしれないと感じます。
- ・私のような博士が生まれないようにと願うばかりです。
- ・今回のワークショップに参加者がロールモデルとなり、これからの後輩に道を示すことが重要ですが、 経済的事情など学生によって境遇は様々なので、ケースバイケースだと感じます。興味がある学生に は、後悔が残る位ならチャレンジするよう伝えるなどしています。特に北里大学薬学部の 4 年制学科 の一期生で博士号を取得したので、良い手本となれるよう努力したいと考えています。
- ・勧めるというよりは一例として紹介したいし、いろんな道があることを教えてあげられるようになり た。

- ・今の状況だと、博士を取得したあとのリスクが大きいと思う。薬剤師免許があるならありだと思うが、 薬剤師免許がない場合はそれなりの覚悟が必要かも。(本当は好奇心だけで進学できる環境であること が望ましいが、現在の日本の状況だと少し躊躇してしまうかも)ただし、本人が進みたいという強い意 志を持っているのなら応援したい。
- ・金銭的な価値観だけで言えば学士取得後すぐに薬剤師として働いた方が安定していると感じるから。
- ・自分自身が将来に不安があるのであまり勧めることはできませんが、進学に関しては、悩んでいる後輩 女性には進学を勧めたく思っています。
- ・正直に決して楽な道ではなかったため、あまり勧めたいとは思いません。また、博士取得の意味や目的を各人がどのように考えているかによって、満足か不満か、楽しみか心配かの評価も変わりますし、今後の社会において、キャリア形成における博士取得の意味や目的は時代とともに変わっていくのだろうと感じています。

#### 【質問7-①】薬学教育委員会の「薬学生の大学院進学促進事業」に協力していただけます

か?



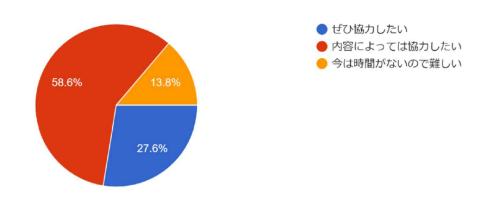
ぜひ協力したい:10人(34.5%) 内容によっては協力したい:15人(51.7%) 今は時間がないので厳しい:4人(13.8%)

#### 【質問7-②】質問7に関して、その他ございましたら自由に記述してください。

- ・地元の進学校の高校生に、薬剤師の仕事説明会を行った時、「私も大学院に行ってみたい」という感想 文をもらいました。学部のどの学年にアプローチするかで、受け取り方も変わるのではないか?と思い ました。
- ・大学院生の数を増やすことを目的とした試みが良いのかは正直今の私にはわかりません。ただただ増 やすだけでは、薬剤師や薬学研究者の地位や待遇向上につながらないように思っております。
- ・子供がいるので制限はありますが可能な範囲で参加したいです。
- ・私よりも業績の良い先輩方がいらっしゃるので、内容によっては参加させていただきます。
- ・どんな形であれ、関わることができると嬉しいと思っています。
- ・ロールモデルではないのですが、反面教師として学生の方々のお役に立てれば幸いです。
- ・本ワークショップでの交流やディスカッションが有意義でしたので、内容によっては協力したいと考えています。大学での業務や実習などが重なる可能性もあり確約はできませんので、今回のようにメールでの連絡などをいただければ幸いに存じます。
- ・自分は病院に就職してから社会人博士課程へ進学して、そのまま病院で働いている薬剤師なので、そう いった視点から協力できることがあれば協力したい。
- ・学生の話を聞いていると、D 進にあたっては金銭面の不安が大きいようです。薬学会は会計が火の車だと会頭がおっしゃっていたが、長井記念とは別枠の奨学金制度を検討しても良いのではないか。(例えば、ひとり親の学生向けの奨学金制度など)
- ・少しでも後輩たちの手助けになれたらと考えている。
- ・行動が制限されるので協力方法によりますが、機会がありましたらぜひ協力させてください。
- ・事業として促進しなければならないほど、今回のような WS を開催しなければいけないほど、進学者 が減っている現実がよく分かりました。現在出産直後で育休中のため、心身が回復して社会復帰しましたら、何か少しでも力になれることがありましたら、協力させていただければと思います。
- ・出身校の在学生に向けて、臨床研究を行う意義や実際の活動について話す機会も何度かあったため、キャリアデザインについて更に考えを深めて今後も努めていきたい。

#### 【質問8-①】薬学教育委員会の「若手教員の教育研究活動のサポート事業」に

協力していただけますか?



ぜひ協力したい:8人(27.6%) 内容によっては協力したい:17人(58.6%)

今は時間がないので厳しい:4人(13.8%)

#### 【質問8-②】質問8に関して、その他ございましたら自由に記述してください。

- ・こういうことに参加すると、どうしてもそのときは参加する人は負担が増えてしまいます。ただし、そのような会議などが形式的なものにとどまらず、その後、実際に教員の教育研究活動が効率的になったりするのであれば協力したいと考えています。
- ・子供がいるので制限はありますが可能な範囲で参加したいです。
- ・私よりも業績の良い先輩方がいらっしゃるので、内容によっては参加させていただきます。
- ・自身の今後のキャリア形成を含めて、若手教員の教育研究活動のサポートには興味がありますので、内容によっては協力したいと考えています。大学での業務や実習などが重なる可能性もあり確約はできませんので、今回のようにメールでの連絡などをいただければ幸いに存じます。
- ・他大の若手教員との交流の機会は少ないので内容によっては協力したいと思う一方、今後は教育業務 の割合が大きくなるので、事業への協力は難しくなると思われる。
- ・現在のポジションにも関わってくるため、自分自身でも考える場と機会はほしい。
- ・育児中で行動が制限されますが、できることがありましたら協力させてください。
- ・質問 7-2 もそうなのですが、事業の名前のみでイメージしていて、詳細が分からないため (WS 中に上記事業の案内はあったでしょうか?中座していたこともあり、理解が及ばず申し訳ありません)、お力になれるのか分かりませんが、可能な範囲で協力させていただければと思います。

#### 【質問9】日本薬学会および薬学教育委員会へのご意見やご要望がございましたら、

ご自由にお書きください。

- ・運営のみなさま、ありがとうございました。楽しくも有意義な時間を過ごさせていただきました。
- ・薬学会の会員限定のコミュニケーションツール(Slack、Yammer など)を開設・運営してほしいです。 用途は Research Gate のように会員間の相互情報共有、コミュニティ醸成です。本日の話にありました 臨床と基礎をつなぐ場としての掲示板になったり、私たちがロールモデルとしてグループ活動をする ための場としての役割りを果たしたりすると思います。WS ではグループ活動において Facebook など の外部サービスを利用していましたが、システム自体の流行り廃りもあり、継続的なシステムとするの に課題を感じております。前職時代に Yammer の導入・普及に少し携わったのと、現職では Slack を 利用しておりますので、何かお力になれることもあるかと思います。よろしくご検討ください。 (こちら志田美春様からのご意見になります。)
- ・最近抱えていた「基礎と臨床」について、モヤモヤが晴れました。ありがとうございました。基礎と臨床が一緒になるのが、楽しみです。窓口や扉があっても、職場の問題があって、道を突っ走れない場合もありますが、6年制1期生として引き続き邁進していきたいです!
- ・貴重な機会をいただきありがとうございました。やはりこういうワークショップは対面での開催がよいですね。遠くの人も気軽に参加できるように、ということなら納得ですが、コロナが理由であれば、次回以降は対面開催のほうが気論も深まりますし交流も広がる気がしております。また、今回参加してみて、長井記念奨学金採用者で、合宿形式で研究会などがあったら面白いかも、と思いました。
- ・それぞれのキャリアの人がいるのはワールドカフェでなんとなく把握したのですが可能であれば簡易的なプロフィールを事前に作成するとより他の人のキャリア形成を知ることができたのではないかと思いました。またその後興味のある方と繋がることができるように連絡先を共有できるようにして欲しかったです。(こんな人たちがいるんだという理解はできても自分への課題解決をするためにはみんなで連携する必要があると思ったためです)。個人的に最後志田さんが話していた YouTube 気になりました。最近は薬剤師 YouTuber もいらっしゃるのである程度登録者数のある方とコラボして認知度を深めるのも良いのかなと思いました。子供同伴だったため十分な参加はできませんでしたが貴重な経験となりました。ありがとうございました。
- ・博士課程を経た人のロールモデル?等の話を共有するのは、具体的イメージが湧くため良いのかなと 感じました。また、その上で長井記念事業のような取り組みがあることや評価される項目などを知って もらうことが、学部生時代の研究への熱量にも繋がるのではと感じました。
- ・この世代の薬学出身の学位取得者約30名を集めて議論するだけあり、非常に多岐にわたる意見が得られ、新たな知見も生まれた。WS後のフリートークも話が盛り上がり、さすがは各出身大学のエース・オブ・エース、トップ・オブ・トップだと思われた。

それを踏まえて個人的には2点の意見・要望を述べたい。

1点目は、これだけの実力がある人達に対して行われたアンケートにも関わらず、事前アンケートでは「自身のキャリアを後輩に勧めますか?」の項目で「あまり勧めない」が 37%も占めていたことで

ある。WS が終わった後のフリートークにおいても本件が驚きを伴う話題となり、6 年制教育開始時の 混沌の中を走りつづける負担・苦悩・不安ゆえに、これだけの高値が出たのだろうという意見があっ た。ぜひとも薬学会や大学には可能な範囲でのサポート体制の充実を図っていただきたい。このフロン ティア世代に含まれる人材の実力は折り紙つきだろうが、それに甘んじていると、いざ疲弊してしまっ た人が多数出てきた際に学問の未来がなくなりますよ。

2点目は、基礎と臨床で接点が生まれにくい件である。先生方は、シニアには「研究しないから臨床は〜」とか「現場を知らないから基礎は〜」などのレッテルがあり、薬学の中でも双方に歩み寄る姿勢が乏しい雰囲気を、身をもって実感しておられるだろう。一方の若手は、基礎サイドは、研究室の資金やスタッフ、臨床サイドは、現場の設備や得られたデータをどこまで外部とのコラボレーションに用いてよいかの裁量が"まだ"ない人が大多数だろう。となれば今こそ、若手同士の基礎・臨床のコラボレーションをエンカレッジする段階にあるのではなかろうか。承認審査等々は若手だと学不十分なこともあるだろう。そこは是非とも年長者の経験を近くで吸収させていただきたい点である。

フロンティア世代の若手、タスクフォースの先生方や佐々木会頭も含めて約50人が日曜返上で1日 議論したのだから、今回の会議には額にして200万前後の重みがあるということを教育委員の皆様方 は改めてご承知おき願いたい。

- ・会でも述べましたが、大学院進学者について、たとえば社会人大学院生のことも考慮に入れるなど、本 日の会であったような多様なキャリアパスに対応した調査を、ぜひ学会として行っていただければと 思います。そのほかにも、キャリアの中断、(薬学系でなく)医学系研究科で学位を取得した人がどの くらいいるのか、臨床とアカデミアを行き来するキャリアの実情、など、学会で調べていただけると良 いのではないかと思います。(必要であれば是非ご協力させていただきます。)また、本日のメンバーと 今後も交流できるよう、希望者について連絡先を共有できるような措置を取っていただけるとありが たく思います。本日はとても有意義な会をありがとうございました。
- ・ありがとうございました。
- ・学生の段階で学位取得を含めた進路選択に悩む人は多いと思うので、色々な経験談を伝えることのできる場があると良いかと思います。大学では研究職や博士号取得者の話を聴講できる授業もあります。多くの学生が集まる日本薬学会年会などで教育委員会が主体となり、予約制で学生と博士号を取得した若手研究者とが話をできる就職活動に近い場を設ける、ワークショップなどのイベント開催を増やすなど、学生側がただ話を聞くのみでないチャンスを増やす必要があるかと感じます。
- ・定期的にワークショップを企画していただけると、後輩の育成のためにもよいのではないかと思いました(全国規模と、部会規模があってもよいかもしれません)。なお、全国学生ワークショップのメンバーはどのように選出されているのでしょうか(選出の基準などはどこかに明記されているでしょうか)。特に、キャリアに関するワークショップに参加したいと考える学生は多くいると思いますので、Zoomであれば全国の薬学生にアナウンスして希望者を募り、すべての薬学生に平等に機会を与えるべきではと思いました。
- ・志田さんの意見であった臨床と基礎を「つなぐ」環境があるとよいと思いました。例えば、病院薬剤業務の中で見つかったクリニカルクエッションからリサーチクエッションへと変換した際に必要とされる基礎研究を実施可能なアカデミックとのマッチングするシステムなど。
- ・貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

- ・本 WS を通じて、多様なキャリア、多様な考え方を持っている方々と現状の課題、今後のビジョンについて種々共有・討論ができ、有意義な時間をいただきました。企画運営いただいた先生方に心より御礼申し上げます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。
- ・博士課程への進学率をどう上げるかを考える大変良い機会になったので、本ワークショップで得られた知見は学生に還元したいと思っている。しかし、博士の進学率は日本全体で減少しており少子化も相まって今後はもっと加速すると思う。さらに、薬学部の定員抑制もあるので、薬学部は特に厳しい状況だと思われる。好奇心で進学するひとは少なく、その割合を増やすためには大学教育の段階では遅いと思っているので(なぜ?を育む教育は時間がかかるので早い段階で行うべきだと考えている)、薬学会から他の分野(義務教育の段階、例えば、出張講義など)に働きかけることも必要なのではないかと思った。
- ・博士課程進学者の増加のためにも学部から研究に興味を持てる機会があればと考えている。
- ・今回の WS の機会を設けていただき、本当にありがとうございました。微力ですができる限り継続して日本薬学会員であり続けたいと思います。WS の際に、長井記念薬学研究奨励支援事業の話題がありましたが、支援事業のおかげで学位取得できましたこと心より感謝しております。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。
- ・この度は貴重な機会を設けてくださり本当にありがとうございました。中村先生は「貴重な休みの日の時間をもらっているので、互いの交流の場としてもらいたい」とお話されていましたが、貴重な時間を皆で分かち合ったからこそ、今回の WS で得られた意見やデータがどの程度参考にされ活用されるのか、主催の先生方からのフィードバックやアクションがほしいですし、参加者である私たち自身も、この日 1 日の交流の場としてのみで終わらせるのはもったいないと感じました。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
- ・学生ワークショップをはじめ、今回のキャリアデザインを考えることについても、良い機会を頂いていると感じます。今回のような開催形式でも、十分意見を出し合える事もわかったが、SDGの司会や発表者によって出てくる差も大きいように感じました。SDGを展開するファシリテーターの育成、増員なども、今後のポテンシャルを引き上げるための後輩育成に必要と感じました。

# 2022 年度日本薬学会薬学教育委員会

◎ 中村 明弘 昭和大

石田 竜弘 徳島大院

大野 恵子 明治薬大

大山 要 長崎大病院

木下 淳 兵庫医大

小佐野博史 帝京大

鈴木 匡 名市大

菅原 満 北大院

高橋 秀依 東京理大

武田香陽子 北海道科学大

武田真莉子 神戸学院大

楯 直子 帝京大

徳山 尚吾 神戸学院大

細江 智夫 星薬大

松永 俊之 岐阜薬大

安原 智久 和歌山県医大

(◎:委員長)